

## 阿 蘇 山

### 火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

### 概 況

中岳第一火口の湯だまりの量は、8 日にそれまでの約 4 割から約 3 割に減少しました。湯だまりの色は灰色で、湯だまりの温度は 70 前後の高い状態が続いています。湯だまりの中央部で高さ約 10m、その他数ヶ所で 2 ~ 3 m の土砂噴出を観測しています。

孤立型微動は 1 日あたり 29 ~ 120 回で、やや増加しています。B 型地震は 1 日あたり 18 ~ 65 回で、やや多い状態で推移しました。

### 噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量、噴煙高度の最高は 19 日の 600m (2 月 : 500m) で、特に異常は認められませんでした(図 1、図 2)。

### 地震・微動活動の状況

孤立型微動は 1 日あたり 29 ~ 120 回で、月合計は 2,260 回 (2 月 : 1,740 回) とやや増加しています(図 1 ~ 3)。継続時間の短い火山性微動 (2 月 : 4 回)、および火山性連続微動はありませんでした(図 3)。A 型地震の月合計は 88 回 (2 月 : 103 回) で、うち 26 個の地震の震源が求まり、多くは中岳第一火口付近のごく浅い所に分布しました(図 1、図 2、図 4)。B 型地震は 1 日あたり 18 ~ 65 回で、月合計は 1,024 回 (2 月 : 808 回) と前月に引き続きやや多い状態でした(図 1、図 2)。

### 火口や噴気地帯の状況

中岳第一火口内の湯だまりの中央部で約 10m、その他数ヶ所で 2 ~ 3 m の土砂噴出を観測しています(図 5)。湯だまりの色は灰色で、湯だまりの量は 2 月 14 日に約 4 割となり、3 月 8 日には約 3 割に減少しました。また、噴湯現象は湯だまりの数ヶ所で引き続き観測しています。

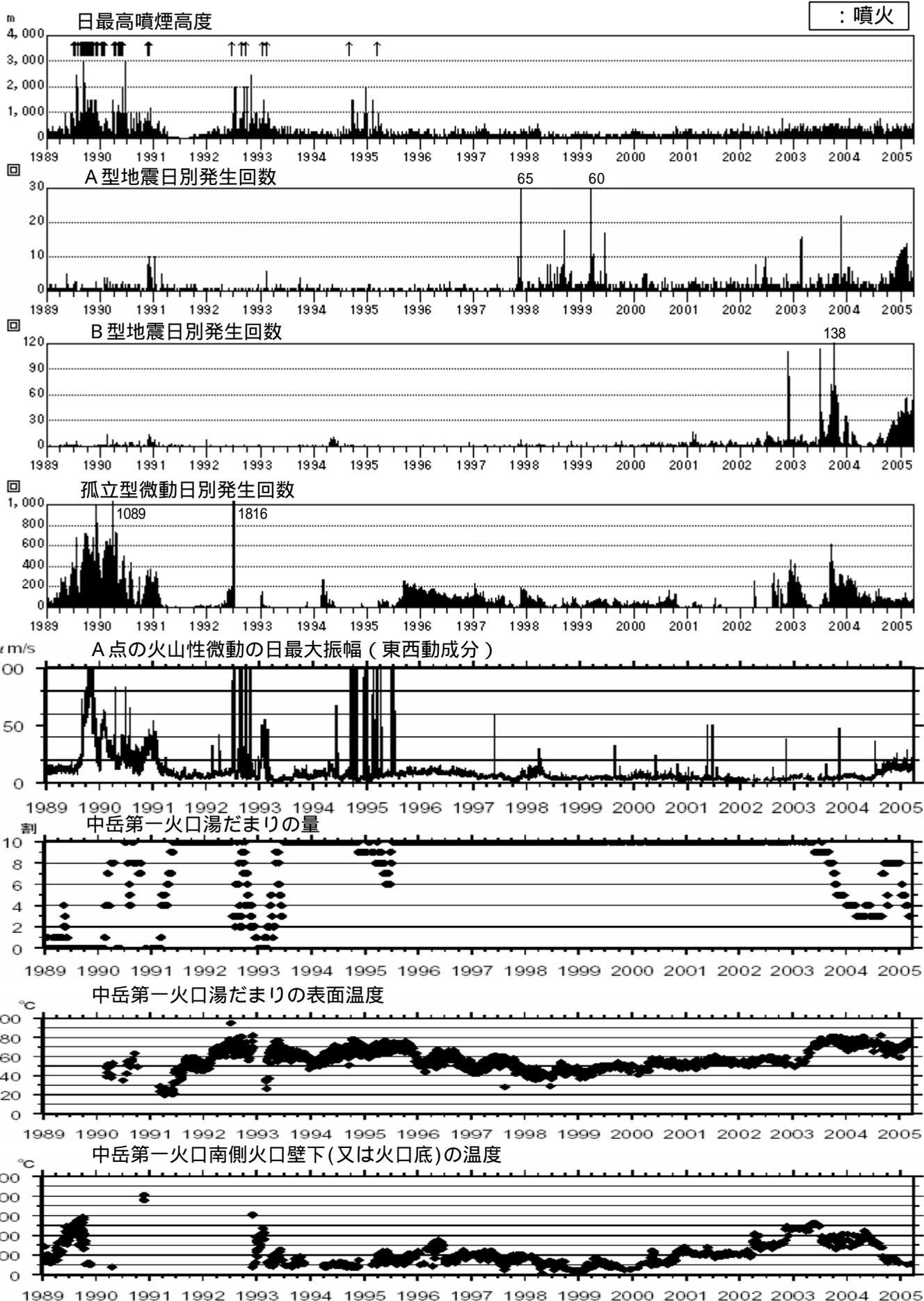
湯だまりの表面温度は 68 ~ 77 (最高 16 日) で、高い状態が続いています(図 1)。南側火口壁下の温度は、16 日に 114 でした(図 1)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

### 地殻変動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 6)。

また、29 ~ 31 日に実施した GPS 繰り返し観測では、阿蘇山測候所 (G0) と中岳火口第一火口周辺の観測点 (G1 ~ G6) 間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 7、図 8)。



阿蘇山 図1 火山活動経過図(1989年1月1日~2005年3月31日)

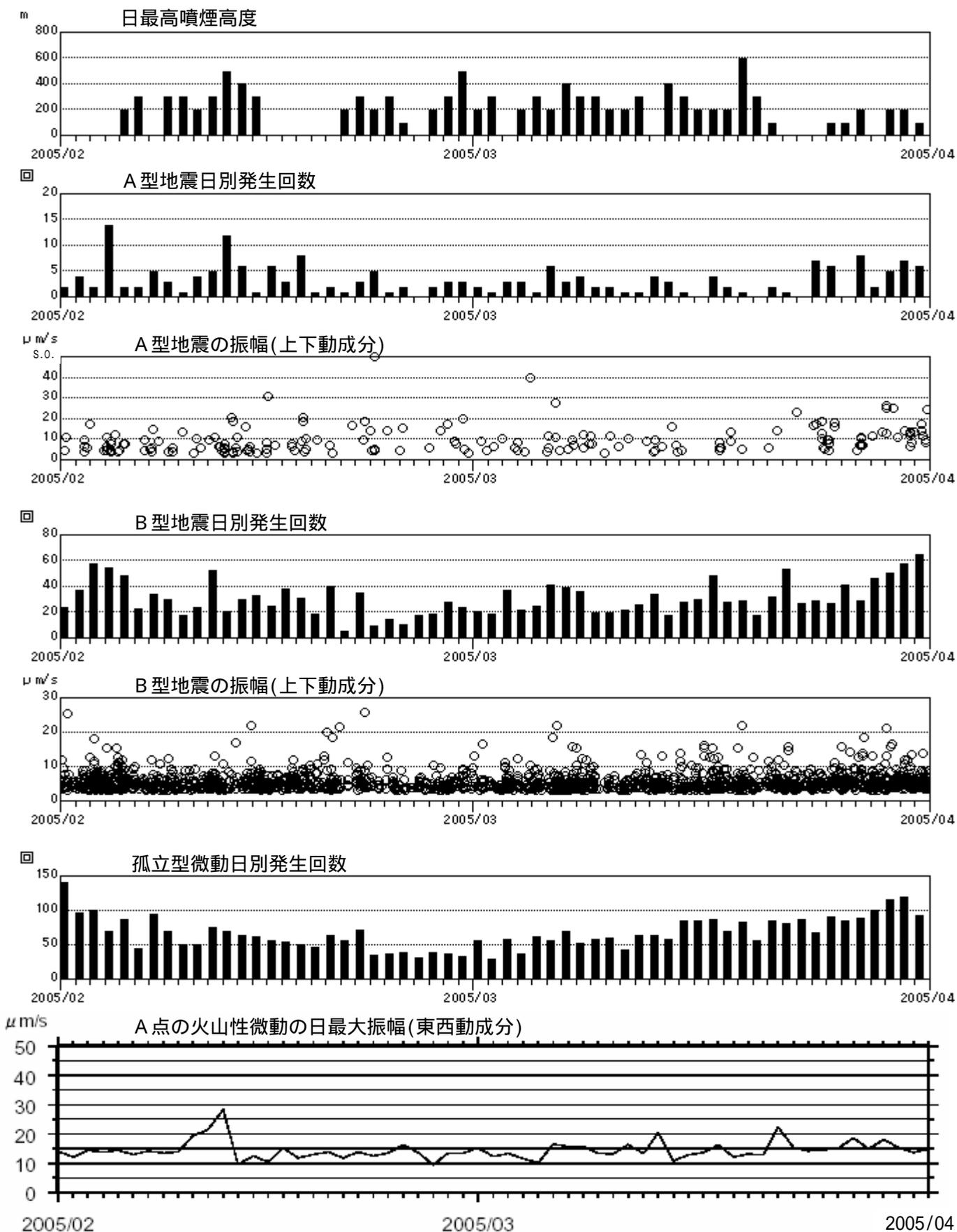


図2 火山活動経過図(2005年2月1日～3月31日)

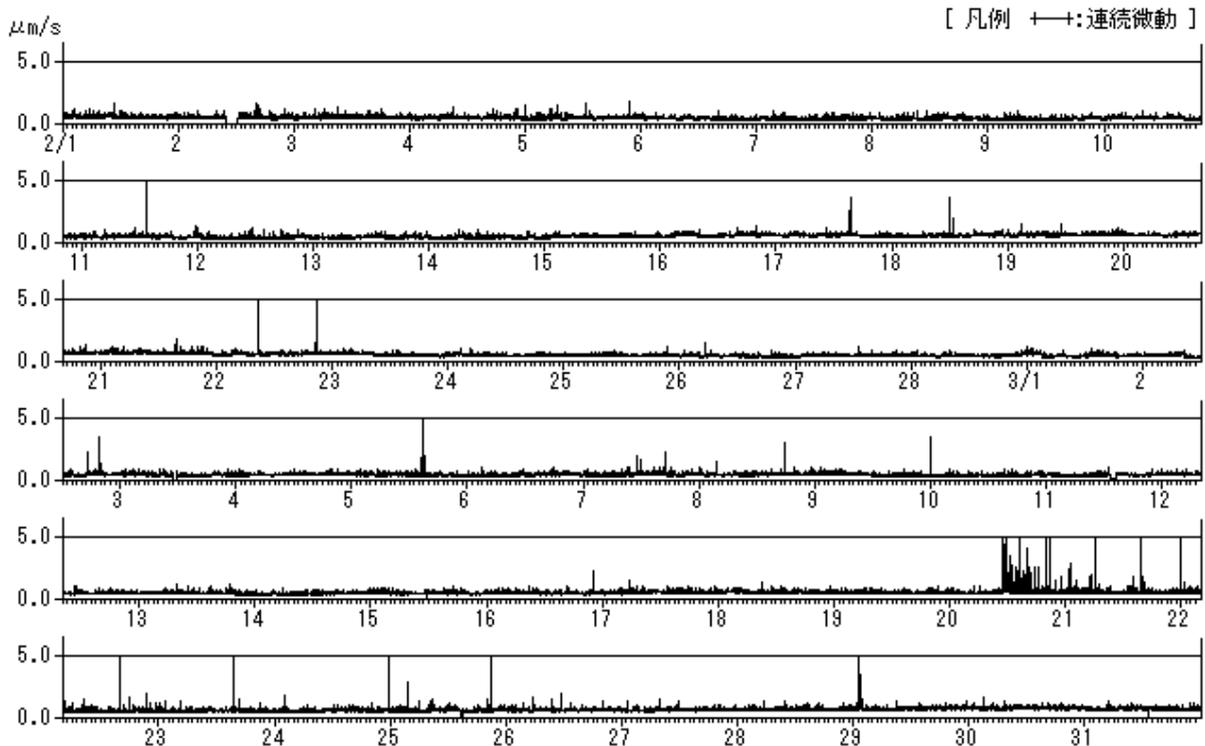


図3 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)(2005年2月1日~3月31日)

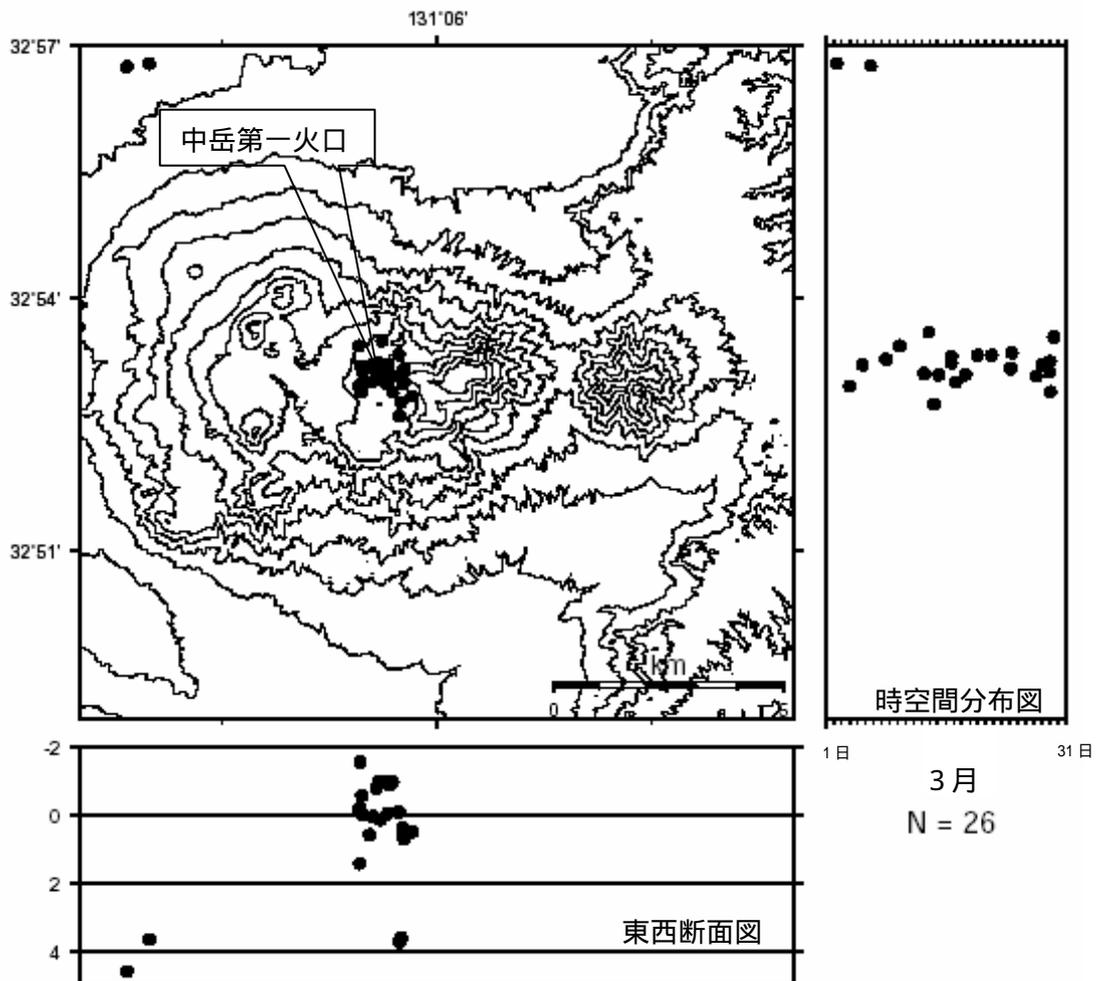


図4 火山性地震の震源分布図(2005年3月1~31日)

阿蘇山

本資料は、防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成した。



図5 湯だまりの状況(第一火口南側から撮影:2005年3月30日)  
湯だまり量は約3割で、湯だまりの色は灰色。  
中央部で約10m、その他数ヶ所で2~3mの土砂噴出が見られる。

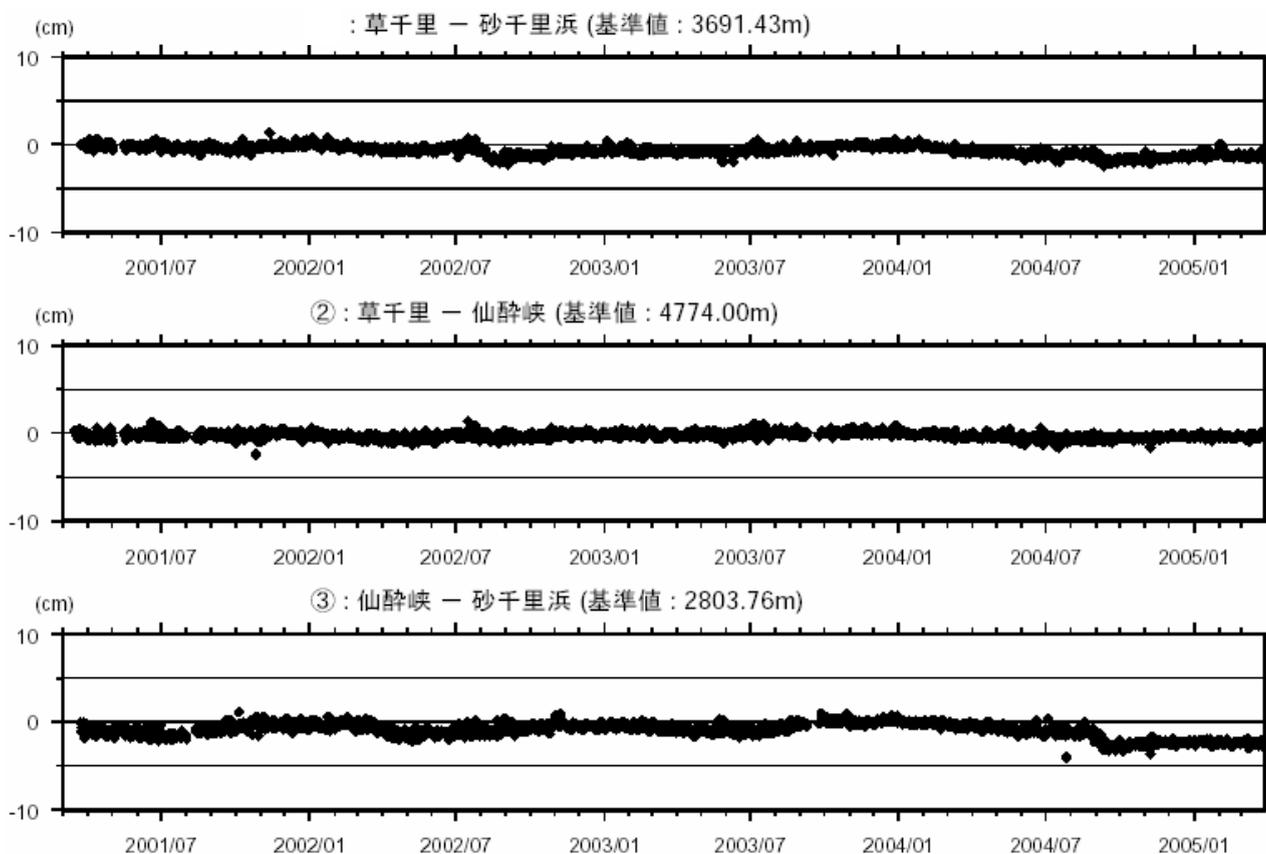


図6 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日~2005年3月31日)

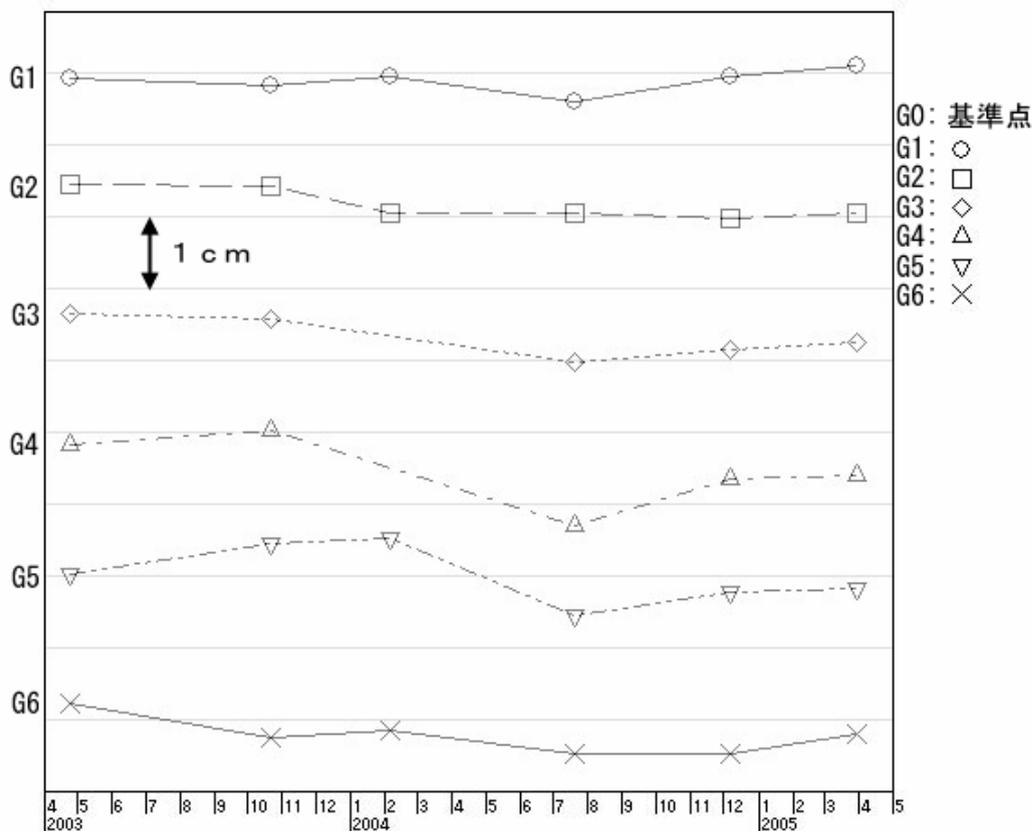


図7 GPS 繰り返し観測による基線長変化(2003年4月～2005年3月)

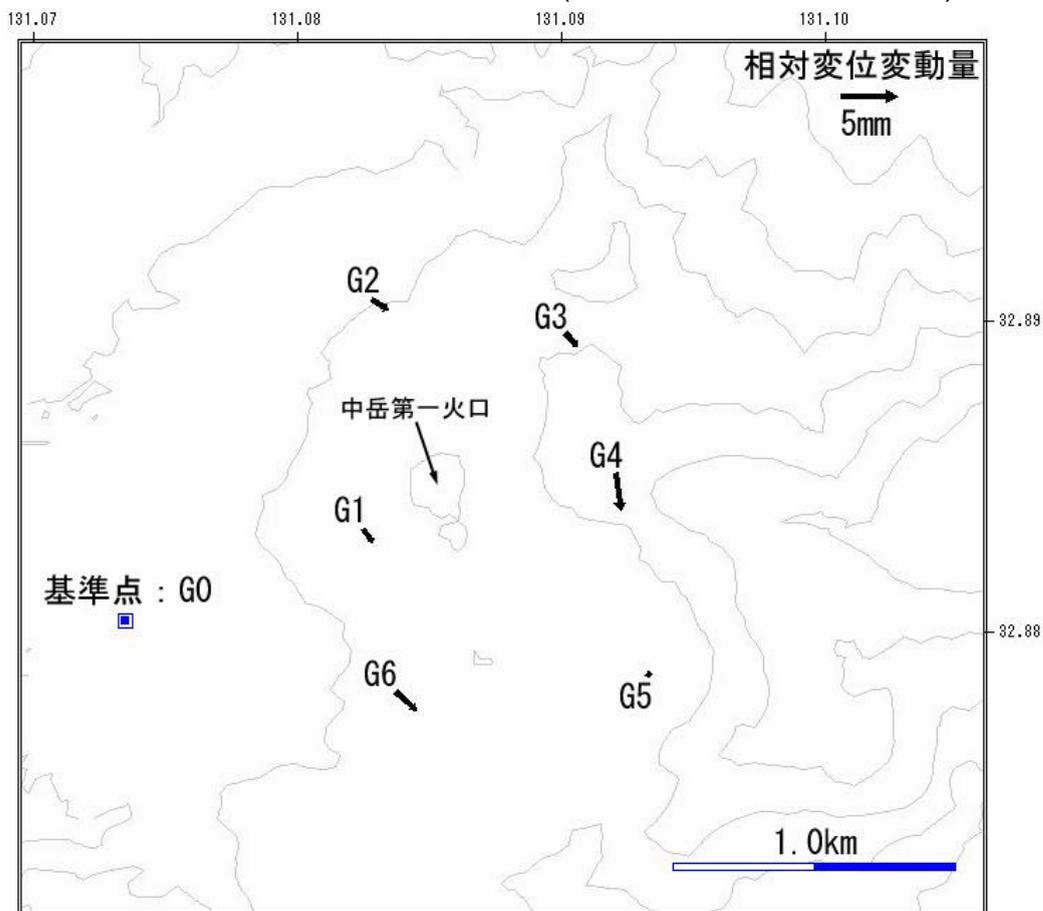


図8 GPS 繰り返し観測の変位ベクトルと観測点の位置(2004年12月-2005年3月)

阿蘇山

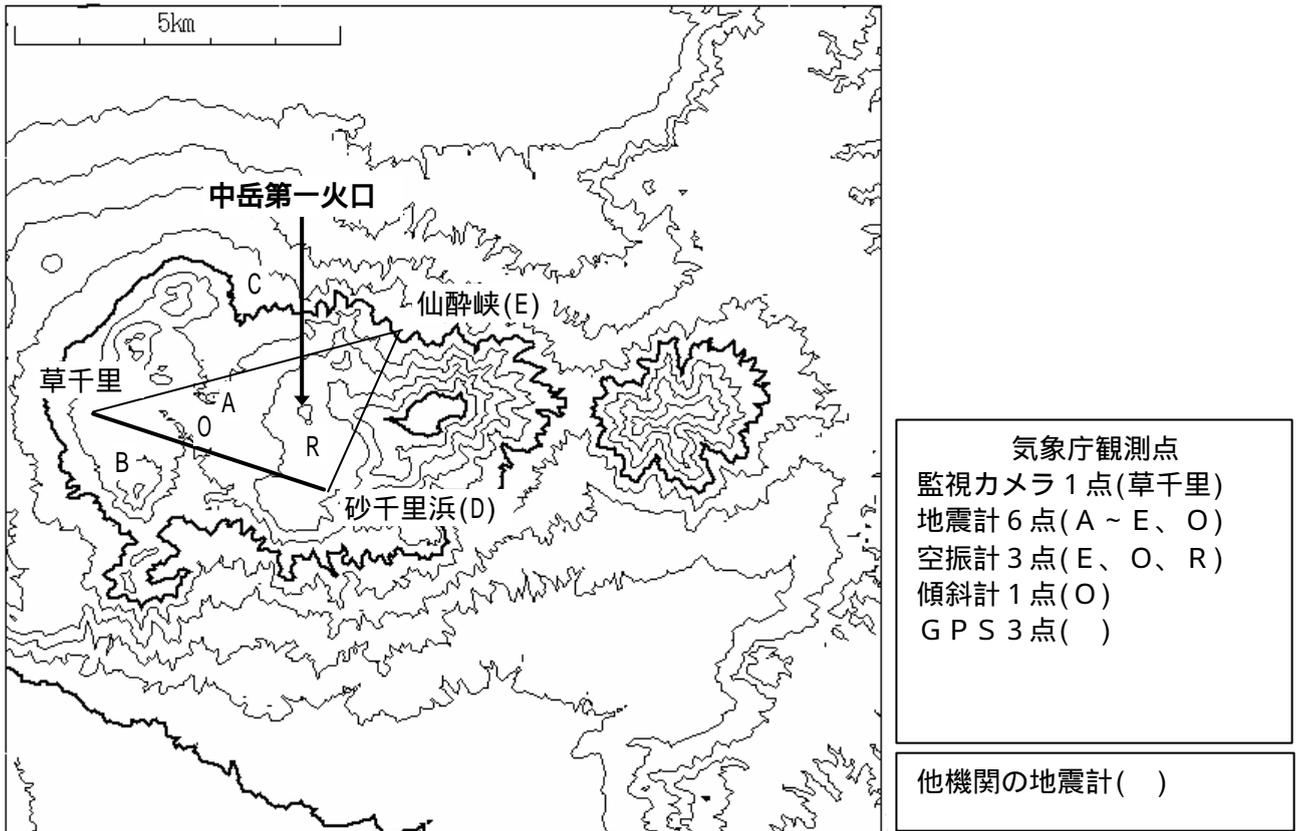


図9 観測点位置図